

住み続けられる国土の基本単位＝「地元」を創り直す視点

島根県中山間地域研究センター 研究統括監
島根県立大学連携大学院 教授 藤山 浩

○地域と国土の現状をどう見るか？

中山間地域の集落、都市郊外の団地が同時人口減少 & 高齢化
林立するタワーマンション→より先鋭的な人口集中と一斉高齢化へ
→人・自然・伝統のつながりのある地域社会(＝「地元」)の消滅危機

○重要な「地元」の創り直しの視点

人々の日常的な生活の舞台～幸福感(記憶の共有)を大きく左右
一次生活圏、小さな自治を担う国土の基本単位＝「小さな拠点」
機能性だけでなく、ふくらみある交流空間が重要＝「サードプレイス」

○持続可能な循環型社会を展望

循環型社会における基本的な一次循環圏を本気に検討へ
対応して必要となる社会技術 & 工学技術の包括的検討を始動へ
「地元」からのボトムアップ的な国土のあり方検討も必要では？

住み続けられる国土の基本単位

≡ 一次生活圈

≡ 「小さな拠点」エリア

平均的な人口規模

●コミュニティ・行政単位の比較

⇒ 「定住自治区」 のような自治と行政両面から位置づけへ

数万人～20万人程度

定住自立圏

合併市町村

総合病院
大型店
高校等の機能共有

二次生活圈

都市拠点とのネットワーク機能

1,000～数万人

旧市町村

<平成の大合併>
(中学校区など)
<昭和の大合併>

一次生活圈

人口定住の基本的単位

結節機能

300～3,000人

昭和の旧村

(公民館区 現・旧小学校区) 「小さな拠点」



- ①コミュニティの地元単位
- ②医療・福祉・教育・商業・交通等の一次機能

各集落とのネットワーク機能

70～80人(中四国)
200～400人(東北・北海道)

大字

集落

<明治の大合併>
(藩政村) * 地方によっては集落と重なる場合も

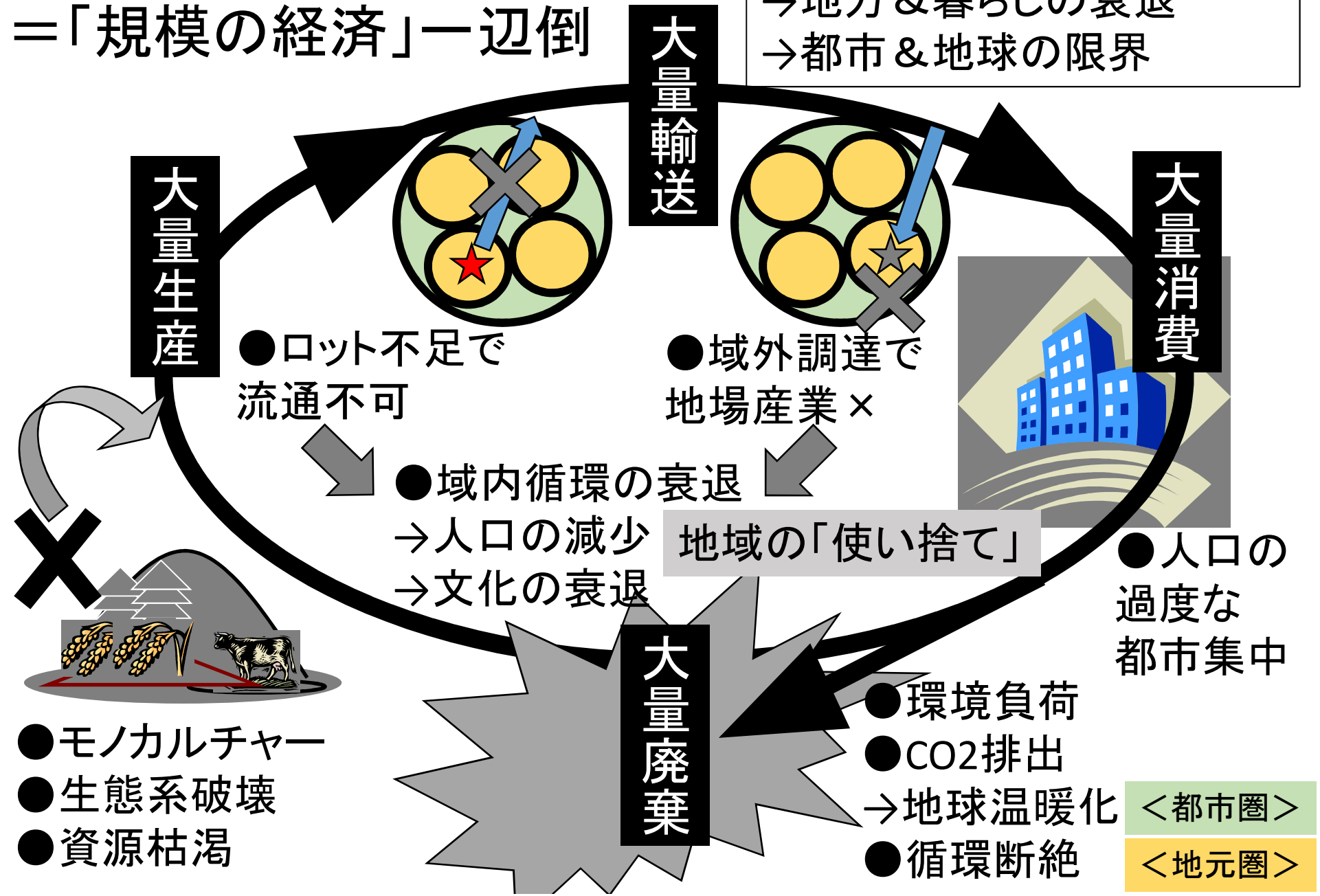
* 最も基礎的・伝統的な地域運営単位

集落単独では定住を支える基本機能や活動が困難

組 (小字など)

「グローバリズム 1.0」
＝「規模の経済」一辺倒

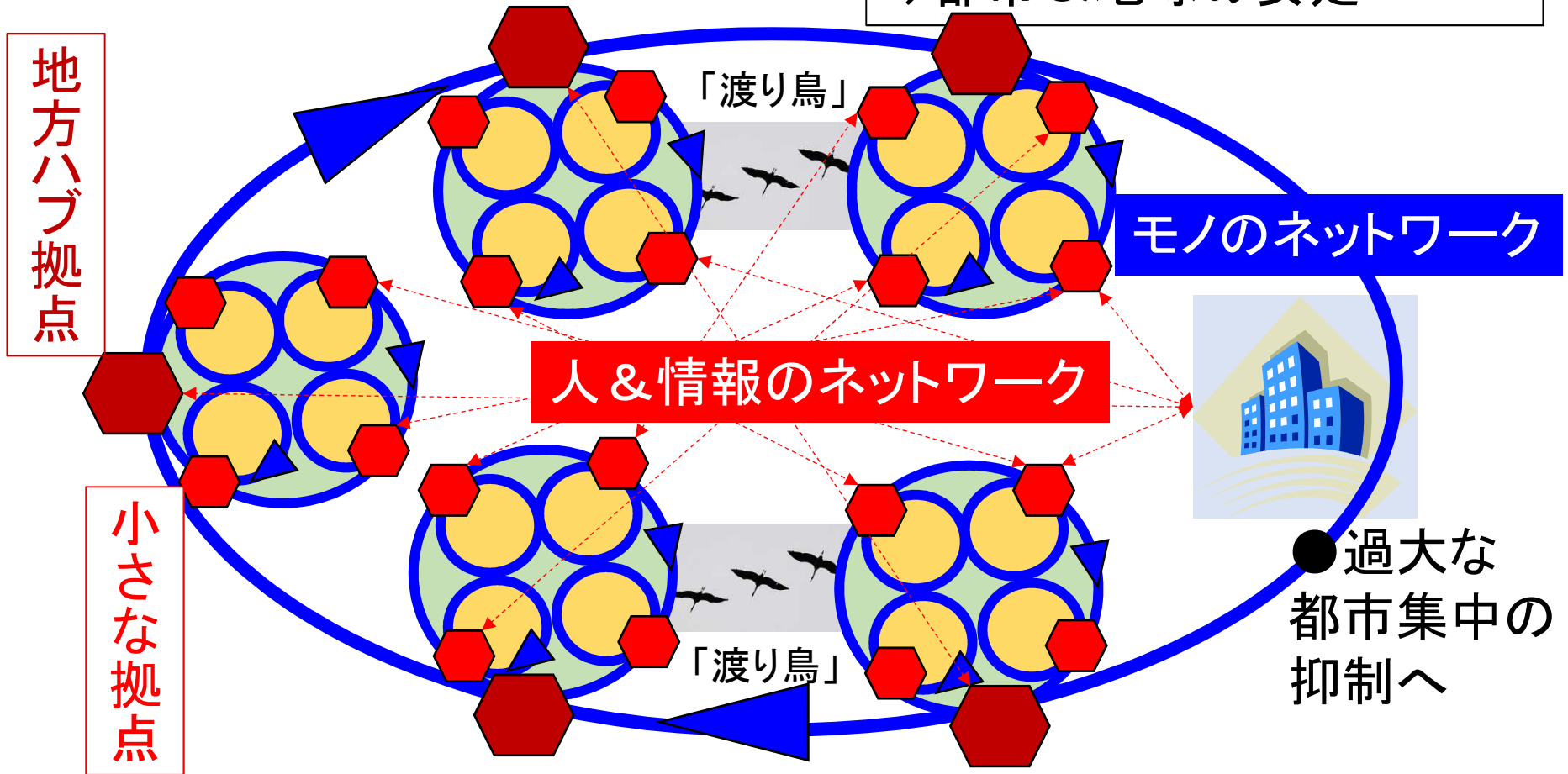
「2周目の危機」＝循環不能
→地方&暮らしの衰退
→都市&地球の限界



「グローバリズム 2.0」

⇒
＝「循環の経済」構築へ

「長続きする」多彩な文明へ
→地方&暮らしの個性化
→都市&地球の安定



●生態系に「追いつく」ネットワーク進化へ
～地域内の多角性と地域間の多様性の重層的連携

<都市圏>
<地元圏>